

# 『思いやりのあるかかわりをもてる子を目指して』

藤枝市立稲葉小学校

## 1 ピア・サポート活動年間プログラム

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	「仲間づくり」ステージ 縦割り班スタート ピア・サポート活動紹介 クラスのピア・サポート掲示スタート みんなが見つけ、見つけられるようにしましょう	【学活】人間関係作りプログラム ① 出会い	【職員会議】ピア・サポート、年間計画
5月	運動会 縦割り班での行動 ピア・サポートの木（運動会）	【学活】人間関係作りプログラム ② 聴き方	
6月	「挑戦」ステージ ピア・サポートの木に全員の名前をのせよう くすの木タイム①→ピア・サポートの木 老人会との交流（4年）友愛訪問①（5, 6年）	【学活】人間関係作りプログラム ③ 自己表現 心のアンケート①	
7月	くすの木タイム②→ピア・サポートの木 自然教室（5年）	【学活】人間関係作りプログラム ④自分の気持ちへの対処・対応	
8月			
9月	くすの木タイム③→ピア・サポートの木 クラスのピア・サポート活動をふり返り足りないところを見つけ、取り組もう	学校生活アンケート	
10月	「実り」ステージ 陸上大会（6年） 親善音楽会（4年）修学旅行（6年）自然教室（5年） くすの木タイム④→ピア・サポートの木 瀬戸谷小との交流 ピア・サポートの木（授業）		
11月	校内音楽会 老人会との交流 くすの木タイム⑤→ピア・サポートの木		
12月	ピア・サポートの木に全員の名前が載っているか確認		
1月	「感謝」ステージ くすの木タイム⑥→ピア・サポートの木 校内や地域の方に感謝する活動～3月	心のアンケート②	
2月	くすの木タイム⑦ 友愛訪問② 6年生ありがとうの会		
3月			

## 2 本校のピア・サポート活動の紹介

### (1) 福祉活動（地域のお年寄りとの交流）

本校では、全学年にわたって、お年寄りとの交流をしている。また、2年生以上を対象に、福祉活動を始める前に『福祉の日』を設定し、福祉講演会を行っている。

2・3年生は、「年をとるってどういうこと」と題して、劇を交えた講演を行った。4年生は、「高齢者疑似体験」をすることで、お年寄りの動きにくさを体験した。5・6年生は、「レクリエーションって何だろう」とお年寄りとの交流を見据えた講演を開いた。

福祉講演会をすることで子どもたちは、自分たちが行う活動の見通しをもつことができた。

1年生は、運動会で地域のお年寄りと一緒に玉入れをする。自分のおじいちゃん、おばあちゃんではないお年寄りとおふれ合うことで、学区のお年寄りとの交流の入り口となる。

2・3年生は、地域にある「グリーンヒルズ」という施設を年2回訪問する。年をとると耳が聞こえにくくなったり、目が見えにくくなったりすると講演会で学んだ子どもたちは、「ゆっくり大きな声で話そう。」「見やすくかこう。」とめあてをもって交流する。

4年生は、地域のお年寄りとの手作りのボーリングや輪投げなど、子どもたちが交流を深められる活動を考え行った。また、ボーリング等をするだけでなく、お年寄りとの会話をする時間をとることで、さらに交流を深めることができた。

5・6年生は「友愛訪問」という名で地域のお年寄りを、地区の公民館にお招きして交流をしている。友愛訪問のお知らせもできる限り、郵送ではなく子どもたちがお宅に伺って渡している。「レクリエーションとは」と学んでいる子どもたちは、お年寄りも一緒に活動できることを考えたり、ルールを考えたりして、お年寄りとの交流を楽しんでいる。昨年度からお年寄りとの会話を重視し、お話タイムを設けている。そこで、お年寄りに寄り添って話を聴いたり、お年寄りの耳元でゆっくり話しをしたりする子どもの姿が見られる。

この2年生以上の活動は、年に2回行って

いる。1回目よりも2回目の方が子どもたちの交流の仕方も上手くなり、積み重ねが感じられる。

また、2・3年生、5・6年生は2学年で活動をすることで、上級生が経験を活かして下級生をひっぱっている。

提言4【活動と活動を結びつけ、意図的・計画的な指導を展開する】

提言5【実践前のトレーニング・実践後のふりかえりを大切にする】

### (2) 縦割り活動

単学級の本校では、縦割り班での活動が多い。例えば、1年生を迎える会なども、縦割り班の全員で1年生を迎え入れる。1年生に名刺を渡ししながら、自己紹介をし、交流することから縦割り活動が始まる。

運動会も縦割り班で、紅白を分けている。応援席では、上級生が下級生の面倒を見たり、一緒に応援をしたりする姿が、当たり前のように見られる。

また、毎月1回程度「くすの木タイム」という縦割り班で遊ぶ昼休みがある。そこでは、6年生が遊びの計画をたてているが、1年生と一緒に遊ぶためにルールを工夫したり、みんなが楽しめるように新しい遊びを考えたりしている。他の学年も年に1回、遊びの計画をたてる経験をした。くすの木タイムで、みんなが楽しく遊ぶための遊びを考えることがいかに大変であるかということを実感することで、6年生への感謝の気持ちがうまれる。また6年生は、他の学年がルールの説明をしているときにそっと助け船を出す姿が見られた。くすの木タイムの後には、振り返りの時間をとり、「ボールを投げさせてくれたよ。」「優しくおしえてくれたよ。」「ピア・サポート」を発表している。

提言5【実践前のトレーニング・実践後のふりかえりを大切にする】

提言6【子どもたちの組織を生かす】

### (3) 児童会主体の活動

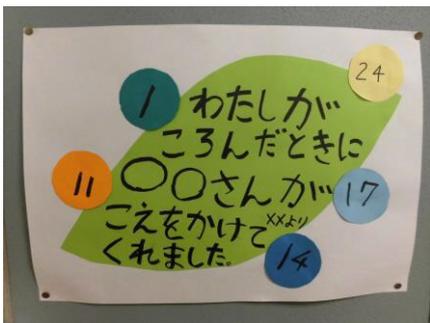
4月の職員会議で、本年度のピア・サポート活動について共通理解を図る場を設けた。生徒指導部からピア・サポート活動の年間計

画や合い言葉「ナイス ピア・サポート」とし、ピア・サポートという言葉を実用的に使うことで子どもたちに浸透させていくことを確認した。

また、子ども達に対しても4月のステージ朝会でピア・サポート活動について具体的に話をし、1年をスタートさせた。

児童会では、4月のステージ朝会を受けて、「ピア・サポートの木」を昇降口に掲示し、毎週3枚程度、ピア・サポートの葉（仲間づくり・挑戦のステージ）、ピア・サポートの実（実りのステージ）を各クラスで貼っていくように声をかけていった。

本年度は、「ピア・サポートの木」を掲示するだけでなく、全校の子どもたちに意識してもらうため、「いいねシール」と題して、自分がいいなと思ったピア・サポートに学年色のシールに出席番号を書き込み、ピア・サポートの葉の近くに貼っている。



『いいねシール』

また、金曜日には児童会の子どもたちが、お昼の放送で「今週のピア・サポート」として、全校に紹介している。

「陸上選手を励ます会」「親善音楽会出場者を励ます会」等を児童会が主体となっている。全校でメッセージを送ろうと各学年に声をかけ、「応援メッセージ」を完成させた。

提言3【「本校のピア・サポート」を共通理解する場を持つ】

提言6【子どもたちの組織を生かす】

提言7【「見える化」で子どもたちの取り組みを認める場をつくる】

### 3 本年度の成果と課題

福祉活動に力を入れることで、校内での子ども同士のピア・サポート、校外での子どもとお年寄りとのピア・サポートなど様々な場面でピア・サポートの姿を見ることができた。

#### ○児童主体のピア・サポート活動へ

今年度も年度初めは、生徒指導部が中心となりピア・サポートを始めた。その後、児童会による取り組みや縦割り班活動のふり返りの時間を利用したピア・サポートみつけにより、子ども達によるピア・サポート活動を実践することができた。

#### ○ピア・サポートの木

児童会が「いいねシール」の取り組みを行ってきたことで、ピア・サポートの木に対する全校生徒の関心が高まり、木には葉が茂り、多くの実をつけるまでになった。また、放送で名前が呼ばれることも、子どもの意欲につながった。

#### ●家庭との連携

家庭に、校内のピア・サポートを発信することができなかった。

### 4 来年度に向けて

児童会の子どもたちが主体となって校内のピア・サポート活動を進めていった。「いいねシール」など新しいアイデアが生まれ、昇降口にある「ピア・サポートの木」を見る子どもが昨年よりも増えた。「ナイス、ピア・サポート！！」のかけ声もより浸透した。

子どもから発信されるピア・サポート活動を特活部と生徒指導部が連携しながら進めていきたい。

また、家庭へも「ピア・サポート」の考えを発信し、家庭でもピア・サポートを浸透させることができるようにしたい。そして、学校と家庭との連携の中でピア・サポートをより進めていきたい。